

# 大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：亀岡 晃佑（臨床心理学コース）

|  |
|--|
| <b>■ 研究題目</b>  |
| “脱マスク”への抵抗における不安要因の検討  |
| <b>■ 研究代表者・分担者 氏名</b>  |
| 亀岡 晃佑（臨床心理学コース・博士課程前期 1 年）（代表者）<br>白浜 恵（臨床心理学コース・博士課程前期 1 年）<br>新田 史暁（臨床心理学コース・博士課程前期 1 年）<br>武藏 諒祐（臨床心理学コース・博士課程前期 1 年）<br>渡邊 真由（臨床心理学コース・博士課程前期 1 年）   |
| <b>■ 研究成果概要（目的，実施内容，結果，今後の課題など）</b>  |
| <p style="text-align: center;"><b>問題と目的</b></p> <p>衛生マスク着用行動に関する先行研究では，様々な不安要因の関連が示唆される。例えば新型コロナウイルス感染症の流行以前から，高社交不安者を対象とした認知行動モデルにおいて，表情や赤面，発汗を隠すための安全行動としてマスクを着用することが指摘されている（吉永・清水，2016）。本邦においてマスクを着用する行為に関する研究は実施されているが，マスクを外す行為に関する研究は少ない。よって，本研究では 2 つの調査を通して，人々のマスクを外す行為と関連する心理的要因について明らかにすることを目的とする。具体的には，「マスクを外す行為」を「脱マスク」と定義し，“日本におけるマスク着用要請解除によってマスク着用が個人の自由となった場合”における，脱マスクへの抵抗（以下，脱マスク抵抗と称する）がどのような不安要因と関連しているのか明らかにすることを目的とする。</p> <p style="text-align: center;"><b>研究 1</b></p> <p><b>目的</b></p> <p>研究 1 では，脱マスクにおける不安要因についての仮説生成を行うため，マスクの着用要請解除後の脱マスク抵抗に関する理由をたずね，KJ 法による分析を行う。その際，抵抗には「ためらう」や「嫌だ」といった様々な形が存在すると仮定し，「ためらう」と「抵抗がある」という 2 つについて尋ねる。</p> |

## 方法

2022年9月初旬に「クラウドワークス(株)」を通して、Google フォームを用いて回答を求めた。115名(男性59名, 女性55名, その他1名, 平均年齢37.46歳 ( $SD = 10.34$ ))が参加した。なお, 本研究は東北大学大学院教育学研究科倫理審査委員会による承認を受けている(ID:22-1-015)。参加者は①フェイスシート(年齢・性別)②脱マスクへの抵抗およびためらいの程度(4件法)とその理由について回答した。臨床心理学を専門とする大学院生5名が, それぞれの理由についてKJ法による整理(内容の分類→グループ編成(サブカテゴリ)→ラベルづけ(サブカテゴリ)→グループ編成(大カテゴリ)→ラベルづけ(大カテゴリ)の順に行われた)を行った。仮説生成に関しては, 頻度の多さおよび抵抗・ためらいに共通, 類似していると考えられる不安を表すと考えられる構成概念を複数採用することとした。

## 結果

自由記述の回答について, KJ法による結果をTable1, 2に示す。記述例には回答者個人が特定されないような一般的な記述を例として掲載した。

Table1 KJ法による「脱マスクへの抵抗理由」についての自由記述の整理の結果

| 大カテゴリ            | サブカテゴリ         | 頻度 | 記述例  |
|------------------|----------------|----|--|
| 素顔を見られる不安        | 顔全体を見られることへの不安 | 9  | マスクをしていない方が恥ずかしい, 素顔を隠せる                         |
|                  | 顔を隠すことへの慣れ     | 4  | 顔全体を見せないことに対する慣れ, 急にマスクを外すことへの抵抗                 |
| マスクへの慣れ          | マスクへの慣れ        | 4  | マスクをすることでの様々な安心感                                 |
| マスク未着用に対する社会的不安  |                | 3  | マスク無しであることに敏感な人がいると思う, 周囲の目が気になる                 |
| 新型コロナウイルス等への感染不安 | 未収束            | 18 | 完全に感染症が収まっていない, 依然としてコロナ感染のリスクがある, 感染がゼロになると思えない |
|                  | 感染不安           | 19 | まだまだ感染が怖い, 外すとコロナが移るかもしれない                       |
|                  | 未知の感染への不安      | 3  | どのような影響が出るのか分からない事に対する不安                         |
|                  | 感染させる不安        | 7  | 自分が感染した時に感染拡大させてしまう可能性, 家族にうつす不安                 |
|                  | コロナ以外の感染対策     | 5  | コロナ以外の感染予防に繋がる, 人混みで何かしらの感染症にかかる不安               |
| 合計               |                | 72 |  |

注. サブカテゴリの記述例は一部を記載している(個人の特定を避けるため若干表現を変えている)。

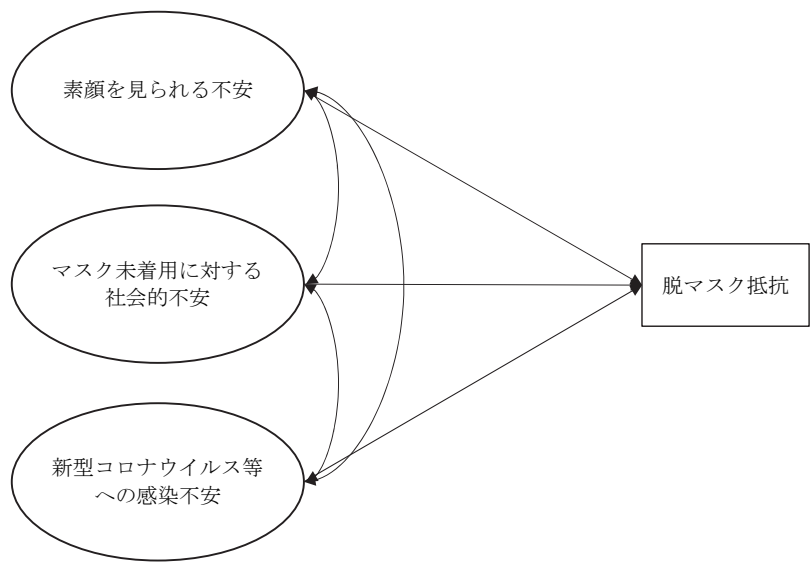
Table2 KJ法による「脱マスクへのためらい理由」についての自由記述の整理の結果

| 大カテゴリ            | サブカテゴリ                      | 頻度 | 記述例                    |
|------------------|-----------------------------|----|------------------------|
| 顔を見られることへの抵抗     | 顔を見られることへの抵抗                | 6  | 顔を見られるのが嫌、顔を隠す安心感      |
| マスク着用の日常化        | マスク着用の日常化                   | 4  | マスク着用が日常化、マスクをつけている安心感 |
| 規範意識             | 規範意識                        | 6  | 周りの人が気になる、周囲を不安にさせる    |
| 新型コロナウイルス等への感染不安 | 感染源となり他者にうつすこと・迷惑をかけることへの不安 | 8  | 家族に感染させられない、他の人にうつす心配  |
|                  | 漠然とした不安                     | 3  | まだ不安が残る                |
|                  | 感染状況が収束していないことへの不安          | 8  | 未収束である、爆発的感染の可能性       |
|                  | 自身が感染することへの不安               | 14 | 感染リスクがある、感染が怖い         |
|                  | コロナ後遺症への不安                  | 3  | 後遺症の懸念                 |
|                  | 幅広い感染予防                     | 4  | インフルエンザも流行る、基礎疾患がある    |
|                  | 広場感染不安                      | 7  | マスク無しでの人混みが不安          |
| 政府への不信感          | 政府への不信感                     | 5  | 自分の危機感と政府の危機感の相違       |
| 合計               |                             | 68 |                        |

### 考察

研究1の結果、抵抗、ためらいの理由において、共通して「素顔を見られる不安」「マスク未着用に対する社会的不安」「新型コロナウイルス等への感染不安」に関する3不安要因が見出された。宮崎他（2021）は、感染を嫌い、感染しやすいと考えている人ほど、日常でマスクを着用する頻度が多かったことを明らかにしており、「新型コロナウイルス等への感染不安」は脱マスク抵抗の中心的な理由として妥当であると考えられる。一方で、「素顔を見られる不安」と「マスク未着用に対する社会的不安」は感染対策というマスクの中心的な機能とは異なる側面が反映されていると考えられる。研究1の結果から、脱マスク抵抗には共通して得られた3つのカテゴリの不安要因が存在するとする仮説モデルを想定する（Figure1）。

Figure1 仮説モデル



## 研究 2

### 目的

研究 2 では、まず、研究 1 で生成した脱マスク抵抗に関する不安要因についての仮説のもと、脱マスクの不安要因を測定する尺度を作成し、その因子構造と信頼性および基準関連妥当性を検討する。それらの結果を踏まえ、作成した尺度と脱マスク抵抗の関連について検討することを目的とする。仮説は以下の通りである。

**仮説 1**：「素顔を見られる不安」は容醜形恐怖心性と正の関連を示す。「マスク未着用に対する社会的不安」は社会的比較と正の関連を示す。「新型コロナウイルス等への感染不安」は感染恐怖と正の関連を示す。

**仮説 2**：不安要因はそれぞれ、脱マスク抵抗と正の関連を示す (Figure1)。

### 方法

2022 年 12 月初旬に「クラウドワークス (株)」を通して、Google フォームを用いてオンライン上で回答してもらった。914 名が参加し、最終的な分析対象者は 813 名 (男性 304 名, 女性 504 名, その他 5 名, 参加者の平均年齢は 39.59 歳 ( $SD = 10.68$ )) であった。また、予備調査を事前に実施、研究 2 の作成項目で想定した 3 因子構造の検討を行い、因子分析 (最尤法・プロマックス回転) の結果から、因子負荷量が低い項目 (.40 以下) が除外された。2022 年 12 月初旬に行われ、52 名 (男性 25 名, 女性 27 名, 平均年齢 38.67 ( $SD = 9.43$ )) であった。なお、本研究は東北大学大学院教育学研究科倫理審査委員会による承認を受けている (ID:22-1-055)。参加者は①フェイスシート (性別・年齢) ②研究 1 で生成した仮説モデルの不安要因を測定する尺度 (臨床心理学を専攻する大学院生 5 名によって作成) ③脱マスク抵抗の程度 (4 件法) ④醜形恐怖心性尺

度（大村，2015）⑤社会的比較尺度（Gibbons & Buunk, 1999）を邦訳したもの（大久保・下田・鈴木，2015）⑥Fear of COVID-19 Scale Japanese Version（Wakashima et al., 2020）（感染恐怖）を用いた。

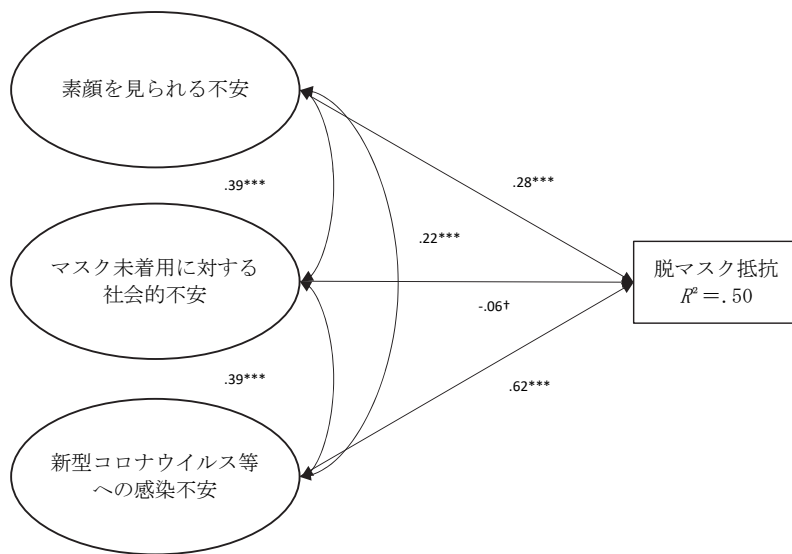
**結果**

研究 1 および予備調査の結果から想定された因子構造が本調査でもみられた（Table3）。素顔を見られる不安と醜形恐怖心性，マスク未着用に対する社会的不安と社会的比較，新型コロナウイルス等への感染不安と感染恐怖との間にそれぞれ有意な正の相関（順に  $r=.46, p<.001, r=.33, p<.001, r=.54, p<.001$ ）および偏相関（順に  $pr=.42, p<.001, pr=.21, p<.001, pr=.49, p<.001$ ）が示された。また，脱マスク抵抗と素顔を見られる不安，マスク未着用に対する社会的不安，新型コロナウイルス等への感染不安との間にそれぞれ有意な正の相関（順に  $r=.38, p<.001, r=.25, p<.001, r=.65, p<.001$ ）が示された。共分散構造分析の結果を Figure2 に示す。適合度は CFI = .983, RMSEA=.043 であった。

Table3 不安要因の確認的因子分析結果

|   | I     | II  | III |     |
|---|-------|-----|-----|-----|
| <b>A. 素顔を見られる不安(<math>\alpha=.85</math>)</b>        |       |     |     |     |
| 素顔を見ることが不安である                                       | .96   |     |     |     |
| 顔を全て見ることが不安である                                      | .95   |     |     |     |
| マスクをせずに顔を見られることが不安である                               | .91   |     |     |     |
| 顔全体を見られ評価されるのが怖い                                    | .91   |     |     |     |
| マスクをしていない状態の顔を見られたくない                               | .91   |     |     |     |
| マスクを着用しないとコンプレックスが隠せず恥ずかしい                          | .87   |     |     |     |
| マスクを外して素顔を見られることを気にしない*                             | -.53  |     |     |     |
| <b>B. マスク未着用に対する社会的不安(<math>\alpha=.89</math>)</b>  |       |     |     |     |
| マスクをしていないことを周囲からどう思われるか不安である                        |       | .90 |     |     |
| マスクをしていないことを気にする人からの視線が怖い                           |       | .87 |     |     |
| マスクをしていないことで嫌な顔をされるのではないかと感じる                       |       | .85 |     |     |
| マスクをしていないことを指摘される不安がある                              |       | .81 |     |     |
| マスクを外したいが、周囲の目を気にして外さない                             |       | .70 |     |     |
| 外出先でマスクの着用を求められ困りたくない                               |       | .58 |     |     |
| <b>C. 新型コロナウイルス等への感染不安(<math>\alpha=.94</math>)</b> |       |     |     |     |
| 新型コロナウイルスに感染している人はまだ多く不安である                         |       |     | .93 |     |
| 新型コロナウイルス感染症はまだ収束しておらず、不安である                        |       |     | .92 |     |
| 新型コロナウイルスに感染するのが不安である                               |       |     | .91 |     |
| 飛沫や密など、新型コロナウイルスの感染リスクを気にしている                       |       |     | .88 |     |
| 新型コロナウイルスの未知な部分に不安がある                               |       |     | .81 |     |
| 新型コロナウイルス以外の感染症予防のためにもマスクを使用したい                     |       |     | .75 |     |
| 他の人に新型コロナウイルスを感染させることが不安である                         |       |     | .67 |     |
| * は逆転項目で、数値は標準化推定値である。                              | 因子間相関 | A   | B   | C   |
| GFI=.951, AGFI=.938, RMSEA=.043                     | A     | -   | .35 | .21 |
|   | B     |     | -   | .47 |
|   | C     |     |     | -   |

Figure2 共分散構造分析の結果



\*\*\* $p < .001$ , † $p < .10$

### 考察

仮説 1 について、想定した変数間において、それぞれが有意な正の偏相関を示したことから、一定程度の基準関連妥当性が認められ、仮説は概ね支持されたと考える。

仮説 2 について共分散構造分析の結果より、男女両群において「新型コロナウイルス等への感染不安」と「素颜を見られる不安」が「脱マスク抵抗」との間に正の関連を示した。また「マスク未着用に対する社会的不安」と「脱マスク抵抗」との関連は有意傾向でその標準化係数も低く、関連がみられなかったと考えた。「新型コロナウイルス等への感染不安」と「素颜を見られる不安」とでは、前者の方が後者に比べて「脱マスク抵抗」により関連していた。このことから、仮説 2 は「マスク未着用に対する社会的不安」以外において仮説を支持する結果が得られた。本研究の結果から、感染不安が高いほど脱マスク抵抗が高くなる可能性が実証的に示されたほか、感染症流行時においても、マスクが平時同様外見に果たす機能があると考えられる。また、「マスク未着用に対する社会的不安」について、相関分析において有意な正の関連がみられた一方で共分散構造分析ではみられなかったことから、同様に有意な関連を示した「素颜を見られる不安」および「新型コロナウイルス等への感染不安」の効果が統制された可能性が考えられる。このことから、脱マスクへの抵抗感やためらいの不安要因として社会的な評価への懸念が想起されるものの、実際には顔を見られることや感染に対する潜在的な恐怖が存在している可能性がある。

引用文献

- Gibbons, F. X., & Buunk, B. P. (1999) . Individual Differences in Social Comparison: Development of a Scale of Social Comparison Orientation, *Journal of Personality and Social Psychology*, 76 (1) , 129-142. <https://doi.org/10.1037//0022-3514.76.1.129>
- 宮崎 由樹・鎌谷 美希・河原 純一郎 (2021) . 社交不安・特性不安・感染脆弱意識が衛生マスク着用頻度に及ぼす影響 心理学研究, 92 (5) , 339-349. <https://doi.org/10.4992/jipsy.92.20063>
- 大久保 暢俊・下田 俊介・鈴木 公啓 (2015) . 社会的比較傾向と自己意識特性の関係 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 17, 137-143.
- 大村 美菜子・小島 弥生・中田 洋二郎・沢宮 容子 (2015) . 女性の醜形恐怖心性尺度の作成 応用心理学研究, 40, 186-193.
- Wakashima, K., Asai, K., Kobayashi, D., Koiwa, K., Kamoshida, S., & Sakuraba, M. (2020) . The Japanese version of the Fear of COVID-19 scale: Reliability, validity, and relation to coping behavior, *PLOS ONE*, 15 (11) , e0241958. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0241958>
- 吉永 尚紀・清水 栄司 (2016) . 社交不安障害 (社交不安症) の認知行動療法マニュアル 不安症研究, 7, 42-93. [https://doi.org/10.14389/jsad.7.Special\\_issue\\_42](https://doi.org/10.14389/jsad.7.Special_issue_42)